

子供たちのために核兵器のない世界を!

— 核兵器廃絶は憲法9条を活かす道 —

日本の平和力

私たちは憲法9条のもとで、世界に先駆けて「非核三原則」および「武器輸出三原則」を生み出しました。そして唯一の被爆国だからこそ、世界の人々に「絶対に核兵器を使ってはならない」と強く訴えることが出来ます。

鳩山内閣が世界から信頼されるために

「非核三原則」があるにもかかわらず、日本に核兵器が持ち込まれていた事実が判明。すべての資料を公開しなければなりません。また、アメリカの核に頼る政治を改めなければ世界の人々から信頼を失います。



平和を求める人々の願い

オバマ演説を世界は歓迎しています。

① 核兵器廃絶の第一歩は核保有国が自ら先に使わないと世界に宣言しなければなりません。アメリカがその先頭に立つことを世界の人々は求めています。

② 地域紛争は先進国が輸出する武器で殺しあっています。人道的立場から国際協定を結び武器輸出を禁止しなければなりません。アメリカの果たす役割は重大です。

オバマ大統領、国連で核兵器廃絶を訴える

非核三原則: 核兵器を「持たず、作らず、持ち込ませず」という事を1971年の国会で決議。

武器輸出三原則: 1967年、当時の佐藤首相が「共産圏諸国、国連で武器輸出が禁止されている国、国際紛争の当時国及びその恐れのある国」にたいしては武器輸出をしないと国会で答弁、その後、76年、当時の三木首相が憲法の精神にのっとり輸出を慎むとして実質的に全面禁止され、国是となった。

◎ご意見・ご感想をお寄せください。

茨城県平和委員会

〒310-0912 水戸市見川5-127-281

TEL・FAX 029-251-2806 e-mail ibahei@amber.plala.or.jp

ご賛同ありがとうございました。朝日新聞12月8日の県内版に掲載された意見広告です。

★ 多くの個人や団体の皆さんの支援で表記の意見広告を掲載することができました。最終的にはまだ集約が出来ていませんが、個人賛同1200名以上、110以上の団体賛同のご協力をいただきました。重ねてお礼申し上げます。後日、掲載された同じ大きさで、賛同していただいた個人・団体の名前を印刷したものをお手元にお届けいたします。

★ 去年は憲法9条を活かす意見広告として「ムダな軍事費は削れ!」という、きつい表現で国民の生活をないがしろにする象徴的なムダな軍事費を「怒髪天を衝く」気持ちで県民にアピールしました。今年はやはり憲法9条を活かす道として核兵器廃絶をテーマにとりあげました。表現はソフトに「道理をもって核

を制す」というニュアンスで、だれにでも納得してもらえるように配慮しました。今後のこともありますのでご意見・ご批評をお願いします。掲載後、さっそく「大変いいものを出してもらい、ありがとうございます。運動のために切手を送らせてもらいます。」という守谷市の主婦の方から励ましの電話をいただきました。

★ 今年取り組みも各平和委員会・会員のみなさんのご奮闘で大きな成果をおさめることが出来ました。来年はさらに茨城の平和運動のために、ともに手を携えて明るく歩み続けましょう。どうぞ良いお正月をお迎えください。



平和かわら版

No. 551

平和新聞茨城版

2009.12/15・25
合併号

発行：茨城県平和委員会

〒310-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806

E-mail ibahei@amber.plala.or.jp



<09年日本平和大会 in 神奈川>

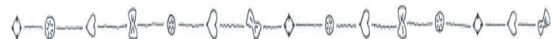
ソマリア帰りの護衛艦を見た

阿見平和の会 中山熙之

先月から唇に〇を付けておいた12月12日(土)、起きたら快晴だった。「昨日みたいに雨降りなら大変だった。心がけが良いのかな」と馬鹿話をしながら朝食。少し早めに家を出た。京急汐入駅に11時30分集合だが、10時45分に到着。乗船場にはまだ誰も来ていない。しばらくぶらぶらして11時20分に戻る。平和委員会の旗がどこにもない。予定の30分になったがまだ来ない。不安になって、チラシを確認したら……なんと、11日(金)。前日だった！思い出した。当初の申し込みは12日(土)9時半だったが、満席なので翌日の11時半(12時出航)のに換えたのだった。なのに、唇の〇を直し忘れた。帰るのも癪(しゃく)なので、一人で軍港巡り遊覧船に乗った。

うぐいす嬢の手慣れたガイドで、まず米海軍基地のある横須賀本港を見る。真っ黒い潜水艦がいた。自衛隊の所属だが米軍基地にいた。次に、原子力空母、ジョージワシントンの巨体を見た。長さが東京タワーと同じ300メートル、幅が72メートル。積載機もあわせれば、お値段が6兆4千億円とか(不確か)。あと巡洋艦を見て、隣接する長浦港へ。ここが海上自衛隊の本来の基地港。多種類の軍艦がいた。多かったのが機雷を除去する掃海艦(小さいのが掃海艇)。磁気機雷の接近を防ぐため艦体が木製だそう。木艦を作れる職人がいなくなったので、今後の掃海艦艇は、FRPかカーボンファイバー製になるだろうとのこと。ここにも後継者問題があった。次に見たのが護衛艦。昔の名前で言えば駆逐艦。「あちらに見えるのが、1週間前にソマリアから帰ったばかりの護衛艦『さざなみ』でございます」。潜水艦用の爆雷投射機、敵船攻撃用のミサイル発射機、対飛行機用のミサイル発射機など全身が武器の塊。近くで見ると結構迫力がある。海賊船から見たら怪物だろう。幼稚園のけんかに、やくざが拳銃を撃ちながら乗り込むようなもの。いかにも場違いだ。というふうに、現物を見て、ソマリアがぐっと身近になった。

自分のミスで神奈川県平和委員会の補足説明は聞けなかったが、それなりに有意義な軍港見学であった。



なお平和大会参加者は中山さんを含めて植田・水野・川又・加藤・藤田・伊達の7名の皆さんでした。ご苦労さまでした。



辺野古新基地建設反対をアピールする沖縄の人々



「吉原泰助さんを囲む

(元福島大学学長)

9条交流会」開く

古河平和の会 奈良 達雄

「古河市9条の会」は、十一月二十九日夜、喫茶店「バルク」で「吉原泰助さんを囲む9条交流会」を開き、約二十名が参加しました。吉原さんは古河市出身、元福島大学学長で、「福島県九条の会」の事務局長をされている方です。吉原さんは、挨拶のなかで、古河の思い出や、「古河9条の会」との出会い、福島に於ける会の活動などについて語りました。

その後、参加者からいろいろな質問が出されましたが、吉原さんは的確に答えられました。例えば、ソマリアへの自衛隊派遣問題では、「戦争中はたくさんの漁船や貿易船が徴用され、アメリカ軍に撃沈された。海賊退治を名目に海外派兵を恒常化し、戦争になったら何倍もの被害が出る。俗論に惑わされてはならない」とか、「若い人に興味を持ってもらう上で、福島での経験を…」の質問に、「会津では、集会のプログラムに幼い子どもたちの合唱を入れたら、若いお母さんたちがたくさん参加してくれた」などの例が出されました。

参加者からは、「とても勉強になった」「福島先の業績に励まされた」などの声が聞かれました。

核兵器のない世界を！被爆国として、憲法9条と「非核三原則」を持つ国として

新春署名行動にご参加を！

新年6・9行動

と き：2010年1月6日(水) 11:00～13:00

と ころ：水戸駅北口(ペDESTリアンデッキ)

主 催：原水爆禁止茨城県協議会



最近読んだ本

みとみなみ平和の会 神長壮行

11月19日に横田基地見学ツアーに参加することにしたので、軍事専門家の本を読んでみた。タイトルは「北朝鮮・中国はどれだけ恐いか」著者 田岡俊次 朝日新書 価額740円+税。田岡氏出身の朝日新聞に対し世間のなかには色眼鏡で見たがる輩が存在するが、この著者の発言はイデオロギーとは無縁な歴史の分析と論理的な解析に定評がある。だから民族主義、排外主義に毒されている輩には不愉快な軍事評論家の一人で、ネットで検索すると彼に対する誹謗や中傷がめだつ。これほど理路整然と具体的な数字を挙げて軍事力対決の愚かさを説く人は、核武装論者にとって目の上の瘤のように腹のたつ存在なのだろう。我々一般市民も軍事基地反対、とか軍事同盟の廃止、を叫ぶとき、情緒的な議論に陥りがちだが、世論の多数派に成長するためには、情緒的に叫ぶより論理的に主張する技術が必要である。現実を冷静にみつめるための教科書として自衛隊員はもちろん、一般市民にも役立つ本である。

事務局だよりの
昨年11月に加藤さんから「かわら版」の編集責任を引き継いで、1年がすぎた。記事内容の特徴は百里基地関係が目立つたことだった。3月に朝日新聞、7月は韓国テレビ放映、8月にはアメリカのロス・タイムズ社、11月はワンダーサイト、そして12月にはTBS(来年1月放映)と賑わった。寅年は吼えるトラでなく寅さんの寅で頑張ってくださいませ。よろしく
願います。(伊達)